

日本情報産業新聞

INFORMATION INDUSTRIES AND MARKETS NEWS

健全経営で不況下でも好調に



48年生れ、熊本県出身、61歳。74年鹿児島大学大学院航海計器学科修了、74年北辰電機（現横河電機）入社、79年TBSブリタニカ入社、82年に東横システム設立、現在に至る。

基本は人を幸せにすることにあり

技術を売るソフト会社としては珍しく、「出会いと約束の企業経営」という人情味あふれる经营理念で成功している。このような不況でも、「人を幸せにすれば結果はついてくるのです」と、超然としている。

13歳のときに、母親をなくしたことから「自分にかかる人たちがきっかけで「自分にかかる人たち」が生き残ることで、幸いなことにGPS開発の権威である大学教授に声を掛けられ、「大学院に通う学費の支給と、5年で辞める」

この人を尋ねて

東横システム株 代表取締役社長

山崎 孝助 氏

を幸せにしたい」と考えるようになり、その思いを実現するために会社設立を決意した。漁船に乗って設立資金を稼

ごうと、大学の水産学部に入学するも海運不況にみまわれ、方針転換を余儀なくされる。

山崎社長のそばに集まってきた人たちである社員に対して、幸せにするために徹底して面倒を見る。「新家族主義」を唱えて社員を息子、娘と呼び、自らが育ての親となり、技術から人間性、ある程度の私生活まで徹底して教育する。教育を施された技術者は、「工ンドユーチャーのため」と、メーカーと同じ立場に立ってシステムを設計する。これにより、顧客からの信頼性を勝ち取れるという図式だ。その結果、創業以来28年間無借金経営を貫き、この不況にも数字を維持している。

「人見るもよし、見ざるもよし、我は咲くなり」という作家武者小路実篤の言葉を座右の銘とする。「人がどう見ようが、立派な花を咲かせればいいんですよ」と自らの人生を言葉に重ね